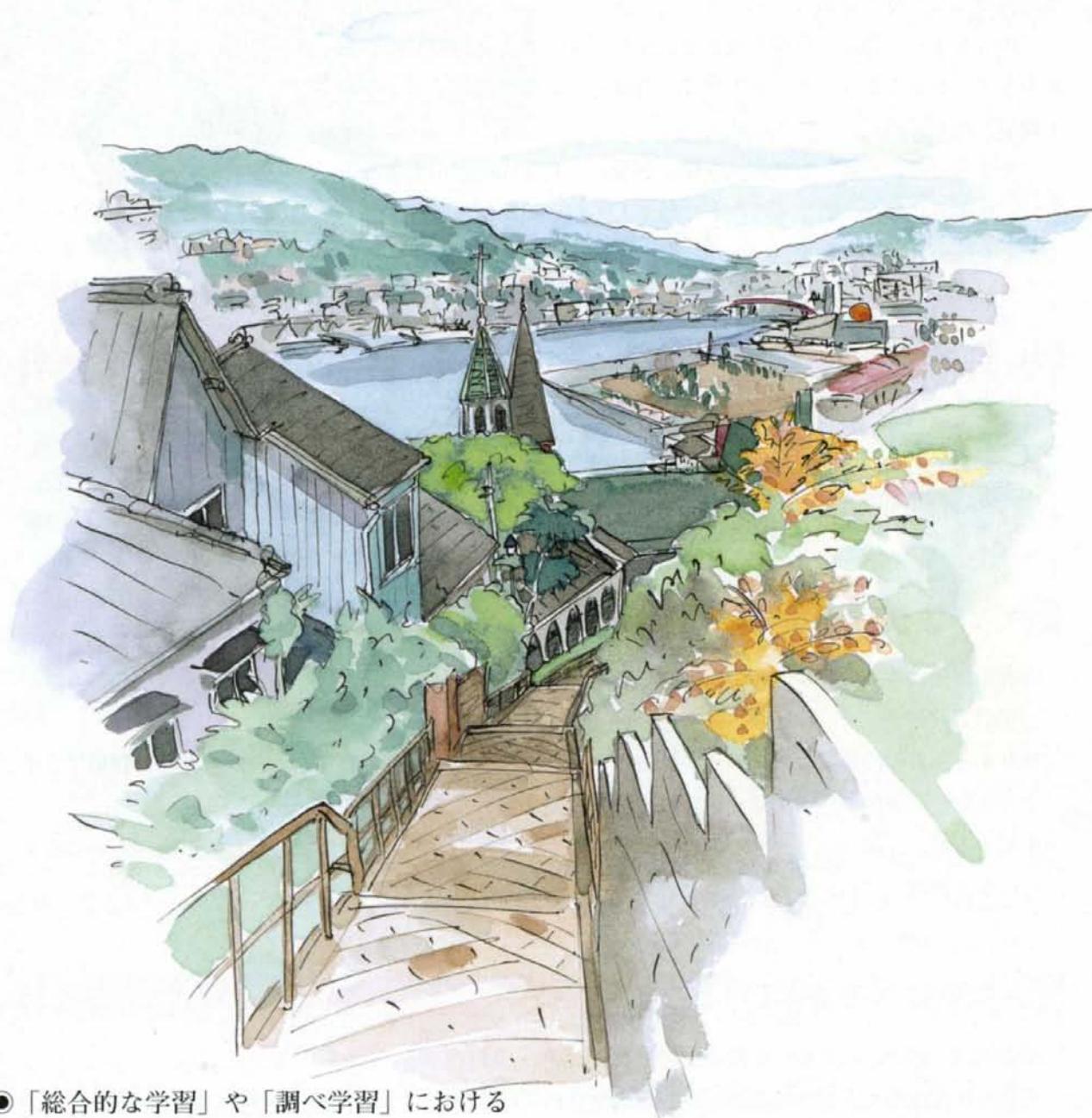


いしだたみ

No. 140

2003年1月



●「総合的な学習」や「調べ学習」における

図書館利用について

●県立長崎図書館でボランティアをしてみま

せんか。

●「90周年記念資料展」を開催します

●郷土資料紹介

●図書館紹介

●平成14年度行事予定（1月～3月）

平成15年度全国高等学校総合体育大会

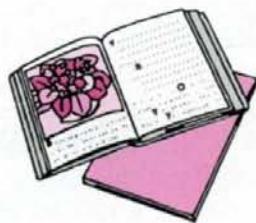


・「総合的な学習」や「調べ学習」における図書館利用について

今年度から実施の新学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が導入され、「調べ学習」等、児童・生徒が集団で公共図書館や公民館図書室（以下、図書館と略）を利用する機会が多くなりました。子どもの活字離れが叫ばれる中で、多くの児童・生徒が図書館を訪れるようになったことについて、我々図書館職員としても大変嬉しく思っております。

しかしながら、施設・設備や資料等が十分でなかつたり、学校との連携がうまく取れなかつたりするために、受け入れに混乱が生じている館も数多くあります。

つきましては、児童・生徒が図書館を円滑かつ効果的に利用できるよう、先生方には、次のようなことに留意して図書館利用を計画されることをお願いします。



1 図書館への事前連絡

- ・日程等について、利用予定の図書館へ事前にご相談ください。
- ・調べ学習であれば、人数、学年、目的、学習テーマ、利用資料等。
- ・「総合学習」「調べ学習」についてのテーマ、内容をできるだけ早くお知らせください。

2 児童・生徒への事前指導

- ・図書館は公共の場で、多くの方が利用されています。利用にあたってのマナー指導をよろしくお願いします。
- ・利用する図書館の施設概要・利用の仕方等について学習しておくと当日、図書館が有効に利用できます（先生が図書館の様子を見ておかれることがあります）。
- ・来館する前に、調べようすることについての事前学習を行い、図書館で自分が何を調べたいのかをしっかりと把握しておくことが必要と思われます。

3 引率者へのお願い

- ・学習中は、館内での児童・生徒の巡回指導をお願いします。
- ・当日の利用前後に、図書館職員との連絡調整をお願いします。



県立長崎図書館でボランティアをしてみませんか

県立長崎図書館では、気軽に無理なくボランティア活動ができるように、本館に本を借りにしたり、返却に来られたりというついでに少しだけ書架の整理をお手伝いしていただけるボランティアの皆様を募集しております。

活動内容等については次のとおりです。

◎活動内容………3階開架及びこども室の書架の整理をしていただきます。

◎活動時間………開館日の午前9時30分から、午後5時30分までであればいつでも自由です。

◎応募資格………満20歳以上65歳くらいまでの健康な方であれば、どなたでも結構です。

◎応募方法………3階カウンター及び2階総務課に申込書があります（応募は随時受け付けております）。

◎その他………活動を始められる前に、図書館の仕組みや書架整理の方法等についての説明会を開催しますので出席していただきます。

報酬・交通費等の支給はありません。

ボランティア保険に加入していただきます（加入手続きや費用は本館で負担します）。



「90周年記念資料展」を開催します

県立長崎図書館が、明治45年（1912）に開館し、今年で創立90周年を迎えたのを記念して、「90周年記念資料展」を開催いたします。

（1）テーマ 「図書館のあゆみ展—郷土新聞でよみがえる長崎の世相の推移—」

（2）期間 平成15年2月4日(火)～2月27日(木)の予定

（3）場所 本館4階展示室

（4）内容 ①長崎図書館の変遷
②明治・大正・昭和期の郷土新聞、雑誌広告

（5）展示資料
（予定）
・芳名録
（来館した内外著名人の自筆サイン）
・長崎の古写真
・各種文庫の紹介と展示
・長崎の地元新聞
（鎮西日報、東洋日之出、九州日之出 等）



唐人館へ行見しに 人物賤しからず 何れを見ても日本人よりも上品に思はれしなり

—長崎旅日記・長崎紀行(17) —

日蘭交流400年のとき、出島関連を三回にわたって続けました。今年度は、唐人屋敷を三回と思って資料を探していますが、なかなか思うような日記・紀行が十分にそろいません。むしろ出島・オランダ関係の資料が新たに目に付きますので、これらは別の機会に紹介するとして、何とか唐人屋敷関連を続け、不足分は自身の知識・素養なきを顧みず、頼山陽ら漢学者の漢詩なども織り交ぜることにしました。どうなりますことか。

さて、天明三年（1783）備中の人古河古松軒が豊後・日向・薩摩・肥後・筑後を巡って佐賀から長崎に入りました。修験者のいでたちで各地の風土を観察した記録を、後年まとめた『西遊雜記』に次のような記述があります。

祇園の社・清水堂石垣のうへに掛けりの舞台なり。欄干皆石なり。眺望さはりなく長崎中を一眼に見る能き景色の有る所なり。

ご承知のように長崎の街と港は並みよろう山に囲まれており、ちょっとした高所からの眺望は格別の趣がありました。特に唐船・オランダ船が浮かぶ長崎港の景色は・・・。今日我々を見て何気ない山でも風雅な名称で漢詩や歌に詠まれています。例えば、彦山は蛾眉山、金比羅山は無凡山・瓊杵山、港口北側の小高い山は天門峯といった具合です。横道にそれましたが、それから古松軒は丸山・寄合の遊女町を経て唐人屋敷に向かいました。

十禪寺の唐人館へ行見しに、人物賤しからず、何れを見ても日本人よりも上品に思はれしなり。頭髪をば剃り、百会の所を丸く剃残し、日本にて廻り坊主なり。其髪を三つ組みにして後へたらし、其上に或は笠或は頭巾を被り居るなり。

古松軒の唐人に対する見方は非常に好意的。「人物賤しからず」・「日本人よりも上品」とは、「何れを見ても」とあることから、船主クラスに限らず工社層も含めての感想でしょう。また弁髪も珍しかったようです。この節唐船が12艘入港し、館内は大勢の唐人でざわめいています。「何かチンパンカンの言語おかしく」と、ここでもチンパンカンが出てきました。古松軒は門のところで遊女の様子も観察しています。門前の腰掛けで役人の指示を待ち、探番の衣改めを受けて門内に入っていきました。探番は門出入の日本人・唐人の懷中を探って禁制の品を改め、また抜荷を防止する役目を担っていましたが、古松軒の観察では「衣のうえより少しなでる」程度だったということです。

次に、文政五年（1822）、はるばる関東の上州板鼻宿から来た金井忠兵衛の旅日記を見てみましょう。

宿場で牛馬宿を営んでいた忠兵衛さん、何かツテがあつたらしく長崎奉行所西役所を「くわしく拝見、御物見に登り是より阿蘭陀屋敷を眼の下に見」た後、舟に乗って「大清舟」を見物しました。

大清舟凡そ長さ二十二、三間より三十間迄でなり幅五間より七間迄。乗る人数八十人位いより百二十人位迄のよし、此度大清南京舟四そう来る ○恒順 ○得泰 ○金全勝 ○全慶 何れもちやんぬりなり、画舟毎に表にあり、唐人女と並び居る所玉を献ずる形あり 又下り龍登り龍の如きものあり 又獅子の様なる物に乗り、戈を持ちしもあり 又かんうに似たりし人の脇に馬に乗たる者あり

唐船の描写は細やかでかなり近づいて見物したようです。もっとも近づきすぎると抜荷の疑いがかかる



りますが。「ちやん」はコールタールのこと、「かんう」は三国志の関羽のことでしょう。唐船・唐人に対する古松軒と違ってかなり手厳しく「ぬりもちやんにてはげ目ありて至ってきたなく見ゆるなり」、「大清人下人は至って見苦しき事なり」と記しています。唐人屋敷の記述は簡単で、むしろ丸山遊女に御興味だったらしい。

唐人屋敷は広き事なり、中に、とうふ屋、茶や、酒肴売る家、是は遊女支度所なり、並びに金物細工人あり、大清より廿ヶ年も前より来り居る者ある由なり、屋敷前に御番所あり

これだけでは唐人屋敷に入ったのかどうかわかりませんが、入ったとしても大門まででしょう。大門と二門の間の広場には野菜や薪、日用品を売る店がありました。しかし「とうふ屋」が唐人屋敷内にあるというのは初めてです。この後は、遊女の花代(揚代)は五日昼夜にて二五匁の由、唐人・紅毛人の屋敷へは細帯(普段着)で行き、着替えの衣類を風呂敷に包んで小女子(禿という)に持たせること、日傘は蛇の目張りで自ら持つといったことが書かれています。

いよいよ紙数が余って漢詩文の世界へ踏み込まざるをえません。上野日出刀先生の『長崎に遊んだ漢詩人』を力強い味方にして頼山陽から入ってみましょう。山陽は広島藩儒頼春水の子として大坂に生まれました。後広島に移って叔父杏坪に修学し、詩文の才能を現しましたが、情緒の安定を欠き、二度も脱藩・脱走。広島の家の座敷牢に幽閉され、廃嫡となりました。有名な『日本外史』の初稿はこの時成ったもの。以後諸国を遊歴して詩文の才を研いたのですが、文人が詩文・書画を書き与えて応分の金を取ることを恥としなくなったのはこの頃からだそ

うです。山陽はじめ著名な文人の書があちこちに残っているのは、旅費・生活費の足しにするためだったわけです。

さて文政元年(1818)五月、頼山陽は時津から長崎に入り、八月天草・熊本へ立ちました。この間長崎の文人や唐人屋敷の陸如金・楊西亭らと交わり、多くの詩文をものにしたのですが、一首ご紹介しましょう。江南の人陸如金に贈った詩です。

較	聞	雲	間	小	陸	見	駭	駭	望	樓	烽	火	一	怒	嗚	望	樓	烽	火	一	た	び	怒	嗚	す	れば	忽	見	空	際	點	秋	毫	磯	港	西	南	天	水	交	オランダ船の行。
才	說	自	願	小	陸	見	駭	駭	望	樓	烽	火	一	怒	嗚	望	樓	烽	火	一	た	び	怒	嗚	す	れば	忽	見	空	際	點	秋	毫	磯	港	西	南	天	水	交	オランダ船の行。
不	說	自	願	小	陸	見	駭	駭	望	樓	烽	火	一	怒	嗚	望	樓	烽	火	一	た	び	怒	嗚	す	れば	忽	見	空	際	點	秋	毫	磯	港	西	南	天	水	交	オランダ船の行。
獨	聲	聞	說	自	願	小	陸	見	望	樓	烽	火	一	怒	嗚	望	樓	烽	火	一	た	び	怒	嗚	す	れば	忽	見	空	際	點	秋	毫	磯	港	西	南	天	水	交	オランダ船の行。
可	如	聞	說	自	願	小	陸	見	望	樓	烽	火	一	怒	嗚	望	樓	烽	火	一	た	び	怒	嗚	す	れば	忽	見	空	際	點	秋	毫	磯	港	西	南	天	水	交	オランダ船の行。
肩	沸	聞	說	自	願	小	陸	見	望	樓	烽	火	一	怒	嗚	望	樓	烽	火	一	た	び	怒	嗚	す	れば	忽	見	空	際	點	秋	毫	磯	港	西	南	天	水	交	オランダ船の行。
隨	喧	聞	說	自	願	小	陸	見	望	樓	烽	火	一	怒	嗚	望	樓	烽	火	一	た	び	怒	嗚	す	れば	忽	見	空	際	點	秋	毫	磯	港	西	南	天	水	交	オランダ船の行。

(『長崎に遊んだ漢詩人』より)

上野先生の訳を添えます。「雲間出身の陸さんは堂々としておられる。その立派さは自分が野人であることを恥ずかしく思われるものがある。聞けば、お年は私より丁度五歳年長とのこと。才能を較べたら、それどころではありますまい」。

山陽の詩の題材は多方面に渡っており、他の漢学者・文人とは大分変わっています。比較的分かり易い「オランダ船の行」を一首。同じく上野先生の訳。「長崎港の西南、水平線のあたり、ふと秋の獣のにこ毛のような一点があらわれた。望楼から合図の号砲がほえると、二十五の砲では、弓袋から弓をとり出す。市街は沸きたつようなさわぎ、人々にいう、西洋から紅毛が来たぞ」。

この船に乗ってきた蘭医から、通詞を介してナポレオンの話を聞いた山陽は、早速「仏蘭王歌」を作ったのですが、詳しくは上野先生の著作をご覧ください。

(郷土課 本馬)

図書館紹介

■有明町図書館

平成11年6月1日、文化会館・図書館・資料館の3つの施設が入った複合施設が「有明町総合文化会館」としてオープン。有明町図書館は、1階正面玄関を入るとすぐ右手、大ホールと向かい合わせの場所にある。図書館の愛称は「こんね」。「図書館においてよ、遊びにきてね」という意味合いを持つ方言で、多くの応募の中から名前がつけられた。その名のとおり誰にでも気軽に利用していただける親しまれる図書館を目指して4年目を迎えていた。蔵書20,000冊からスタートし、現在40,000冊。50,000冊の蔵書を目標に計画的に資料の充実を図っている。

図書館利用の中心は何といっても子ども達。全体の4割近くを占めている。利用者カードの登録も4人に1人は子ども(25%)である。町内小・中学校児童・生徒の登録率を調べてみると、小学生63%、中学生83%(平成14年5月調べ)。総合学習も始まり子ども達の利用は確実に増加している。

子ども達の利用増加に一役買っているのは読み語りボランティアグループ「こんね」。図書館が行った読み聞かせ講座に参加したメンバーがその後も地域の子ども達



のためにと定期的に活動を続けている。

また、学校へのPRも図書館の大重要な仕事の一つ。毎月の新刊書やAV資料等のリストを作成し最新情報を提供している。子ども達の読書活動や総合学習等図書館としての何らかのお手伝いができたらと思っている。

そして、何よりも図書館は様々な情報の発信基地だと思っている。昨年の夏、町の海岸で30年ぶりにアカウミガメが産卵しニュースになった。図書館では朝刊に載った朝、早速産卵を目撃した人と連絡を取り写真を分けてもらい、「アカウミガメ30年ぶりに有明の海岸で産卵!!」というコーナーをその日のうちにつくった。その後も地域の世話をする人と連携を取りながら卵がふ化して海に帰るまでの情報をたくさん写真を使って紹介し、わが町だけのアカウミガメの記録資料ができた。夏休みとも重なって図書館は情報を得ようとする親子連れで賑わい、身近な図書館として感じてもらえた一つの例となつたような気がする。

「住民とともに歩む図書館」をテーマに、館員一同こころのサービスを心掛けていきたいと思っている。



長崎県図書館活動推進大会 優良読書グループ・地域文庫等表彰

- 優良読書グループ
竹松読書会(大村市) 代表開和子
- 優良地域文庫
長与図書館子どもの本の会(長与町) 代表本田泰子
- 社団法人 読書推進運動協議会表彰(優良読書グループ)
まゆみの会(諫早市) 代表田原真弓

平成14年度行事案内(1月~3月)

- 2月 90周年記念式典(17日 本館)
- 県立長崎図書館協議会(17日 本館)
- 県読書グループ連絡協議会理事会(21日 島原市)

編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号／印刷 (株)昭和堂 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル
ISSN 1344-5235 ホームページアドレス www.lib.pref.nagasaki.jp



この広報紙は、環境に配慮した大豆油インキと古紙配合率100%の再生紙を使用しています。